



大島町立第一中学校

2 学年 学年通信

R4.10.20 第 47 号

運動会の作文を紹介します。

僕は「今年の運動会を全力で楽しむ」目標に全力で取り組みました。今回の運動会について二つのことを書こうと思います。一つ目は学年種目についてです。今年の学年種目はきずなりレーでした。～中略～バトンが自分たちアンカーへと回ってきたとき、蒼太君と本番以上の全力で走りました。ゴール直前のあと少しのところで紅団を追い越すことに成功しました。これから苦しいときや辛いとき、あの達成感を思い出せば成し遂げることができそうです。二つ目は応援合戦についてです。僕はこの応援合戦を今回の運動会で一番力を入れようと思っていました。白団のスローガンである「雷轟電撃」をダンスに入れることをがんばりました。ソーラン節では常に力強く表現できるようがんばりました。～中略～「ドッコイショ」や「ソーラン」、最後の「ヤー」の部分もダンスに支障をきたさない、しかし勢いのある声で力強くこなしました。表現の見せ場である S・T はとても複雑で、初めは「できるのだろうか」と不安でしたが、ダンスはもちろん移動の形も全て覚え成功することができました。二年生で初めて優勝することに成功しました。次は僕たちが最高学年として全力でやっていく番です。後輩を引っ張るのではなく、僕たちが磁力のように後輩を吸い寄せる、そんな三年生を僕は目指したいです。

谷合 優太

私は今年の運動会では出られる種目が少なく、三年生や二年生にたくさんの迷惑をかけたと思います。だからこそ、生徒席からの応援や応援合戦で絶対に誰よりも大きな声を出し、笑顔で大きく踊ると決めていました。そして、練習が始まると振りを覚えることに苦戦しました。最初の方は練習についていくだけでも必死でした。ですが、友達に教えてもらったり、家で自主練したりして比較的早いうちに振りを覚えることができました。次に私は、振りを大きく踊ると言うことに苦戦しました。自分では大きく踊っているつもりでも、周りからは小さいと言われ、徐々に振りを大きくしていきました。そして、ある時三年生から、やりすぎだと言うくらい大きく踊ってみてと言われ、そうしてみると、自分で動画で確認したときにすごく踊りが良くなっていて驚きました。～中略～ 私は今年の運動会練習から本番まで意識していたことがもう一つあります。それは三年生をよく観察してどのようにしているのか注意深く見ていました。私が三年生を見ていてすごいと感じたことが一つあります。それは行動で一・二年生を引っ張っていたということです。応援合戦の声出しで誰よりも声を出して、一・二年生を引っ張っているところはすごくカッコ良かったです。ぜひ来年私もできるようになりたいと感じました。

内田 莉乃

3000m 計測

10 月 11 日（火）にサンセットパームラインで、3000m 計測を行いました。運動会から始まり、行事の多い 2 学期ですが、運動会に続き運動が得意な人も苦手な人もそれぞれが力を振り絞り、まさに「全力は美しい」という言葉通りの走りを見せてくれました。苦しいときにどこまで頑張れるか、どれだけ前向きに取り組めるかが大切です。自分を律し、苦しいことから逃げずに取り組むことで成長へとつながります。本日までの中間考査が終わると、次は駅伝に向けた練習がスタートします。各区に分かれての練習となります。選手として参加する人もマネージャーとして参加する人も、二年生として、後輩の手本となり、先輩を支える活躍を期待しています。

